

酒田市立光丘文庫のあゆみ

おもなできごと

西暦 年号

一九一八 大正七
一九一九 大正八

故本間光丘に対し、植林の功により正五位が贈られた。
本間四郎三郎光丘翁贈位祝賀会

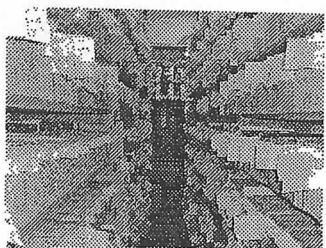
主権 中村 弘町長 於 下日枝神社境内
齋藤美澄（よしずみ）著「贈正五位本間四郎三郎光丘翁事歴」出版。

一月 庄内三郡有志により本間光丘翁頌徳会設立（会長 中村弘町長）

一月 光丘（ひかりがおか）神社創立運動が起こり、事業資金五万円の寄付募集を展開。
春ころ 本間家当主光弥（八代目）が図書館設立を表明。

「光丘神社創建に対し、何をもちて報いるべきかを考えたすえ、光丘が念願してとうとう果たしえなかつた最上川渡し場付近への接待寺経蔵に代わる図書館を設立することに決した。」

◆ 接待寺経蔵……本間光丘が当主で宝暦八年（一七五八）の年から、最上川渡し場は五丁野とよばれた葦谷地にあり、天候の悪い日など盗賊や暴漢が出て難儀していたので、ここに寺を建てて旅人を接待すると同時に、経蔵を置き、僧侶の勉学に役立てようとした。ところが幕府の新寺建立禁止令により光丘が没するまで毎年のように出願したが、ついに実現しなかつた。



書庫3階の国書

一九三三 大正二二

六月一日（本間光丘の祥月命日）財団法人光丘（ひかりがおか）文庫設立。
本間家が財団維持金として一〇万円、それに光丘以来の蔵書二万冊と土地と建物その他什器すべてを負担することとした。

一九二五 大正一四

九月三〇日 光丘文庫竣功

本間光丘が自ら砂俵を積んで築いた山王森の東南、酒田市街地を見下ろす現在地に。
森山（善平）式鉄筋コンクリートブロック二階建て社殿造りの本館及び三階建て書庫。

正面玄関は破風（はふ）。設計者は内務省神社局建築課長角南隆（すなみたかし）。
荒木、松井、松浦、白崎等の旧家からも多数の蔵書が寄贈された。

本間家と取引のあつた山形を代表する豪商紅花商人の佐藤利兵衛、福島治助両家から大量の和書が寄贈された。



光丘文庫正面

一九二九 昭和四
一九四八 昭和二三

正面玄関扁額の「光丘文庫」は鶴岡出身の海軍中将佐藤鉄太郎による。
初代文庫長 荒木彦助（大正一一～昭和一一）
第二代文庫長 白崎良弥（昭和三～二二）・文庫長代理 山田与太郎（昭和二二）
第三代文庫長 本間祐介（昭和二三～二四）

三月一日 荘内盲人点字読書会を付設。
九月二〇日 ヘレンケラー女史来酒を記念し、酒田市立琢成小学校講堂にて「山形県下盲人大会及び荘内盲人大会」を開催。

四月一日 財団法人光丘文庫の建物及び蔵書の一部を借りて「酒田市立図書館」を設立。
三月二五日 財団法人光丘文庫解散。（登記）

四月一日 酒田市は財団法人光丘文庫の建物及び蔵書の寄贈を受け、その事業を継承。
酒田市立図書館の名称を酒田市立光丘図書館に改称。

四月 酒田市立図書館の名称を酒田市立光丘図書館に改称。
六月一九日 光丘文庫の本館と三階建て書庫の所有権移転登記を完了。

三月九日 光丘図書館の蔵書が酒田指定文化財に指定された。

四月一日 酒田市立中央図書館を酒田市総合文化センター内に設置につき、「酒田市立光丘図書館」を「酒田市立光丘文庫」に改称。

一九五〇 昭和二五
一九五八 昭和二三
一九五八 昭和二三
一九五八 昭和二三
一九六三 昭和三三
一九八二 昭和三八
九九六 昭和五七

平成八

三月一日 旧光丘文庫本館一棟、付書庫、付属家具、室内装飾品並びに建築工事
関係資料一式が酒田市指定有形文化財の指定を受けた。

※ 現在約六、五〇〇点程の国書及び蔵書等が保管されている。

〈参考文献〉・田村寛三著『さかた風土記』平成一〇年一二月発行

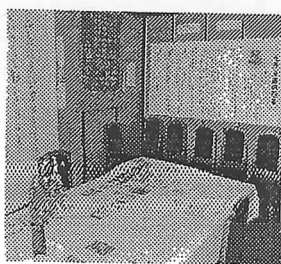
・本間光丘メモリアル記念編集『光丘文庫探訪』

酒田市立光丘文庫二〇〇一（平成一三）年六月発行

平成一九年一〇月 現在



酒田市立光丘文庫
☆ 開館：9：30
～16：45
★ 休館日
月曜日、祝日
TEL (0234)
22-0551
FAX (0234)
22-0612
◎入館料は無料です。



貴賓室